2021.8.4 原電前抗議行動報告

目次

・開会のあいさつ
・シュプレヒ・コール
・主催者スピーチ
・脱原発スピーチ
・参加者スピーチ
・申入書読み上げ
（首都圏連絡会）
・申入書読み上げ
（反原発自治体議員・市民連盟）
・原電前アクション音楽
・今後の行動提起①
・今後の行動提起②
・シュプレヒ・コール
・閉会のことば

参加者：67名　カンパ金額：¥〇〇〇〇　前回：¥7,282

今回の司会・久保のはじめのあいさつは、「東海第二原発が再稼働へ向けて最終局面に入っている。水戸判決が出た。原発は人の命を犠牲にしたうえでないと稼働できない。署名、チラシ撒きなど再稼働阻止に向けて行動を起こし、それは首都圏の脱原発市民団体が一斉に行動を起こすもの。」というものだった。そしてここにいる参加者へ一緒に闘うことを訴えた。

そして中村のシュプレヒコールは、そんな久保のあいさつに代えた東海第二原発の再稼働阻止への強い闘志を後押ししているかのようにパワフルなものだった。この日もかなりの猛暑に見舞われたが、その中村のコールが、そんな暑さを吹き飛ばしてくれた、と思えたのはおそらく私だけではないと思った。

スピーチの要旨：とめよう！東海第二原発首都圏連絡会、たんぽぽ舎の柳田です。2つお話しします。今日は30分早く来てこの付近の住宅街や商店街にチラシを入れました。常総生協でつくられたこのかわいいビラですね。36万枚刷りました。今日はとりあえず数百枚撒きました。このビラは避難計画ができていない、ということで水戸地裁では東海第二原発を運転させてはならない、こういう判断をしました。それで今、東京高裁に来てます。でも、水戸地裁では東海第二原発を運転してはならない、と判断したんですね。私たちはとっても喜びました。このことをこの周辺の、日本原電の周辺の人たちにはまだあまり知られていないだろう、と思いまして今日は6，7人で400枚ちょっと、チラシを持って回りました。このチラシですね、この三つ折りのかわいいチラシです。

なんとこのチラシは36万枚も印刷されてる。地元の茨城県でかなりたくさん撒かれますが、東京圏で5万枚、千葉で数万枚撒かれます。ということで、‘東海第二原発を運転してはならない！’そういうことが簡潔に書かれています。ぜひ、見ておいて下さい。

今日の集会は実は見慣れない新しい旗がきております。あの、経産省テント前ひろばの再稼働反対のノボリですね。このノボリがここにあるということは大変うれしいことであります。そして郵政ユニオンのノボリ、そして神奈川からのノボリ、そういうあちこちから集まってきた人たちが、何としても東海第二原発をとめよう！、ということで集まっております。

もう1つ、2つめは、この前の茨城での会議で決まったことは、東京、千葉、茨城、神奈川、埼玉、こういったところで、9月11日に、東海第二原発を動かすな、水戸判決に従えと、こういう行動を9月11日、一斉に行おうと決めました。こういう東京や千葉や神奈川や茨城や埼玉が、こういう普段はあまり付き合いがないところで、JRの駅やあるいはその他で一斉に行動する。その中身は、‘東海第二原発を動かすな、水戸判決に従えと、こういう中身なんですね。

1都5，6県の人たちがこういう同じ目的で立ち上がる、このことはとてもすばらしいことです。今、たんぽぽ舎で、9月11日にはJRのお茶の水駅で、30、40人でしっかり抗議行動をしようと思っています。そのチラシも配られていますのでご覧ください。

こういう形で東京、千葉、神奈川、埼玉そして茨城で一斉に同じ行動をするということは初めてのことなんです。ますます私たちの運動が広がっていることを示しております。

9月11日にやる理由は、当初は9月1日の防災の日に行おうとしたのですが、9月5日に茨城の知事選があるのでそれを避けて9月11日にしたと。そして9月11日はあの、アメリカで飛行機がビルに突っ込んだ、あの日と同じ日であります。私たちはこの日に1都5県の50カ所くらいのところ

で、首都圏で一斉に行動する。これが上手くいけば、第二波は来年の3月11日、東電による福島事故が起きた日です。そしてさらに、秋の9月のときに、つまり東海第二原発がいよいよ再稼働しようとする9月に第三波を予定してます。この東海第二原発のオンボロ原発が動けば必ず放射能事故を起こします。起こさせてはいけません。みなさんの力で何としても止めましょう！ありがとうございました。

スピーチの要旨：こんにちは、毎月この抗議行動にそして申入れ行動に、私たちと一緒にして頂いていることに敬意を表したいと思います。ただいまご紹介頂きました、まあ茨城から来れる人が限られている、こいうこともあり、（私は）毎回来ておりますけども、東海第二原発の再稼働を止める会の披田と申します。

本日は先ほど公判の話がありましたけれども、とんでもない会社だと。法律的には経理的基礎と言われていますけれども、本当に事業をする会社としてなっていない、そもそものカネがない。そのことについて少し話していきたいと思います。

この暑い中ですけど原電は東海第二原発の構内で、来年の12月には工事を終わらせたい目標だけは出されていますけれども、それに向けて、再稼働工事とはまだ言えず、安全対策工事というものをやっているんだというかたちで、このコロナ禍にもかかわらず工事を強行し続けています。

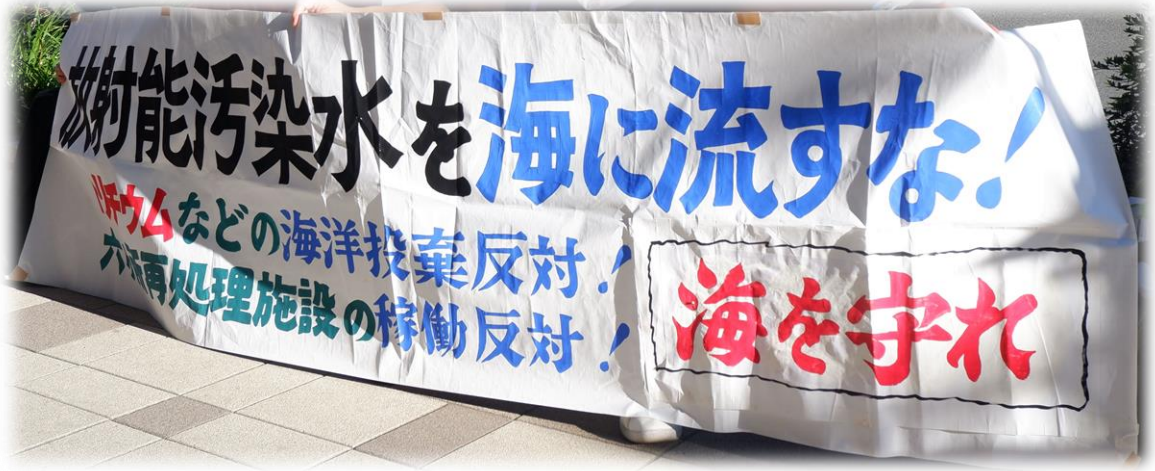
そもそも、電気料金に上乗せしたかたちでここ10年、まったく販売する電気をつくれてもいない原電がその、電気料金の基本料だというかたちで毎年1千億円もの資金を受け取って黒字だったり、経営を続けています。そのようなかたちで結局のところ、電気料金が総括原価方式というもののもとでどんなにムチャクチャなものでも電気料金に反映されるということが今まで許されてきた、その結果としてのこの電気料金です。これは結局消費者を搾取する、そしてそういうことでこの間生きながらえている、そういう事態であること、そういうこと自体を私たちは納得するわけにはいきません。

今、行われている再稼働工事の資金、これは総額3500億円と言われておりますけど、この資金自体、自らの資金や借り入れでは賄えない、そんな原電です。あの福島事故を起こし、被災者への補償も十分にできず、メルトダウンした3基の原子炉の処理にもまだ数十兆円も必要で、国からの支援で事実上国有化されているそんな東京電力から2200億円もの、前払いというかたちで補填を受けなければならない、そんな企業が日本原電です。この一点で倒産、事業撤退するしかない、そういった会社である、それが日本原電だということをまず、第一に確認したいと思います。

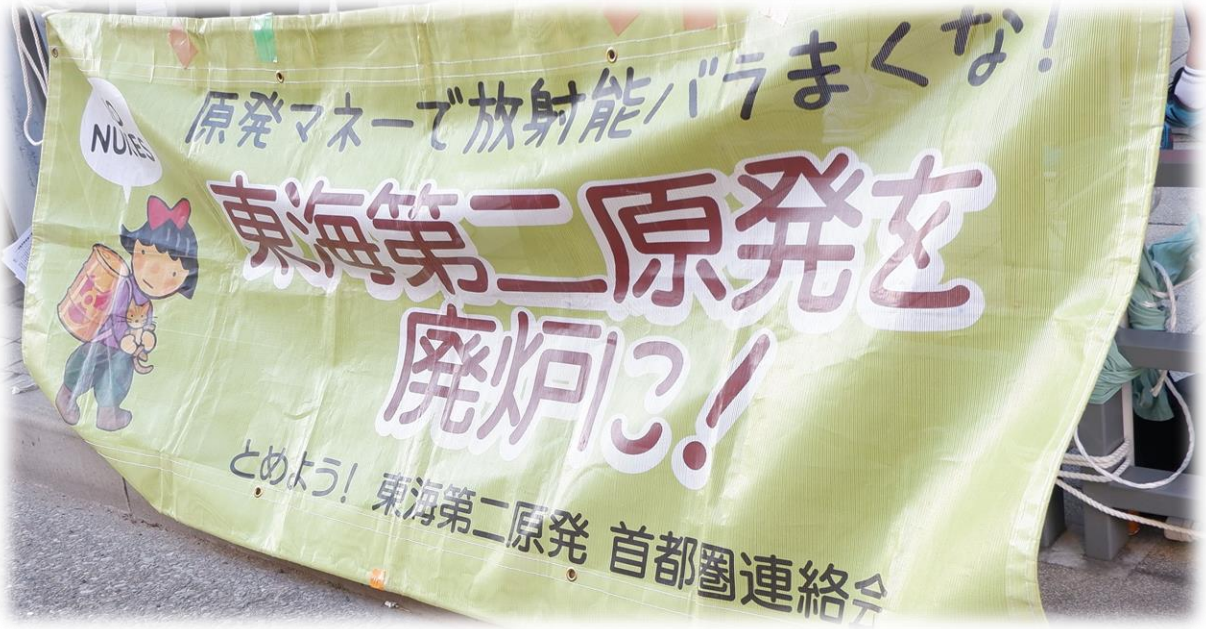
続いて、もう一つ、この日本原電は東海村とは別に、福井県敦賀市に敦賀原発1・2号機というものを持っていますけども、その2号機で再稼働を目指すということで審査を求めております。しかし、実際にはこの敦賀2号機が活断層の上に建っているということが専門家からも明らかにされ、現実的に再稼働はあり得なくなっています。にもかかわらず原電はあの手この手で審査を引き延ばし、あろうことかその審査の過程で地質のデータの改ざんを80か所も行ったと。そしてこの1月には異例な規制庁による立ち入り調査までがなされた、そういう事実もございます。

最近では先日7月28日の原子力規制委員会において、これ以上審査をする必要がない、ということが規制委員会で決まっております。今までこの審査を長引かせることで敦賀2号機分の電気料、これは毎年500億円に近いものですけど、これを受け取り続け生き延びてきております。詐欺まがいのことと言わざるを得ません。だらだらとそれに付き合ってきた規制委員会も原電にあきれ果て、自らの保身のためにも原電を切り捨てざるを得なくなっているのです。規制委員会の山中委員はこのことが全社的なものであるならば、「このことは東海第二原発にもかかわってくる」と規制委員会のなかで発言しています。

確かに許可は出されています。しかし、重大事故等対処施設という附属的にそれもつくらなければならない安全対策施設が今審査中であって、こんなものは本当に原電に対して規制委員会が許可を出せるかどうか、このように規制委員会が言っているというこ



とに私たちは注目する必要があると思います。
また、このような基本料金で動かない原発を支えるということは、北陸電力の志賀原発の2号機でも行われていますけど、その買い取りをしてきた関西電力、中部電力が先日報じられたところによればこの3月で、20年間続いた基本料を払い続ける契約を打ち切ったということが株主総会で説明もされました。
確かに北陸電力においては打ち切りをしたものの、敦賀2号機、この原電に対する継続はしているわけですけどももうすでに、東京新聞の言い方によれば、‘原発互助会体制’で原発は守られてきた、この原発互助会体制は、経済合理性から言っても破綻しているということがはっきりしてきたと言えると思います。ま、関電が原電に対してだけちょっと甘くしたいのは、関電の使用済み燃料を福井県外に持ち出さなければならない。それをむつに東京電力と原電が一緒につくるそれをあてにしているという特別な政治的なことがあって原電だけは特別だと言ってるわけですけど、それに対して株主訴訟が行われているのと同様に、そもそも関西電力にしても中部電力にしても原電にそんなカネを出し続けること自体が認められない。そしてそうなるならば原電は今時点で倒産をしていると言っても過言ではない、ということを私たちは確認する必要があると思います。
そして原電を支えている東京電力自体、柏崎・刈羽原発の7号機の再稼働をこの6月にも目指した経営計画をつくりましたけどもこの間、明らかになっているように、対策工事の完了がこの1月にされたと。その直後から五月雨（さみだれ）式にまだこれはやれてなかった、ここにも穴があった、ということが続いています。
そしてテロ対策としての侵入防止の安全対策に不備が相次ぎ、規制委員会もすでに新しい燃料の装荷を禁止する措置を取らざる得なくなっています。こういった、東京電力は信頼も完全に喪失するなかで再稼働計画がとりあえず破綻しています。規制庁の東電への立ち入りの調査、原電に対するそれに引き続き東電に対する本社立ち入り調査、社長への聴取が最近行われた、ということを私たちは押さえる必要があると思います。
こういった東京電力の事実上の子会社であるところの日本原電。そしてそこから2200億円の資金が出されて再稼働工事がなされていること。そして敦賀2号機の再稼働不能、契約の破棄、基本料金が入らなくなる、こういった事態が展開される中に、すでに企業活動としての日本原電は、もう原発の事業活動が完全に破綻していると言わざると得ないわけです。こういった日本原電に対して私たちはこれからも徹底して追求していきたいと思います。
で、最後にちょっと（話が）変わりますけど茨城県は10年前のあの福島原発事故の隣接県であり、その県南部においてもホットスポットと言われる高濃度の放射性物質の汚染地帯となったところです。先日、県庁所在地である水戸市で採取された野生のキノコであるアカヤマドリから基準を超える放射性セシウムが検出されたとして出荷の自粛を要請しました。数年前まで茨城の県南部のタケノコが出荷停止となっていたということもあります。10年経っても汚染が続き、野生動物のイノシシなどは全てを検査しないといけない事態も続いております。
原発が事故を起こして放射性物質をまき散らすということはこういうことであり、事故の規模によってここ東京でも汚染地帯となるだけでなく、永久避難が強いられることになることも私たちは改めて再確認をして、東海第二原発の断念、その廃炉とすることをここで改めて原電に訴えるものです。以上です、ありがとうございました。



スピーチの要旨：最初に、日本原電さん、（そこに）いるか！ 水戸地裁の判決を受け止めて、今からでも遅くないから、控訴を取り下げて再稼働を断念しろ！！ 私たち、脱原発かわさき市民は、2011年3月の福島の原発事故を受けて、川崎市全体から集まった小さな団体ですけど、この10年、毎月毎月、‘さよなら原発1000万人署名’をはじめ、署名活動を駅頭でやっています。メーリングリストには150人の仲間が集まっています。そして毎年、脱原発のイベント、映画会や講演会をやっています。
私は4月に、‘終わりなき原発事故被害’の上映と満田夏花さんのトークということで、見えなくされている被害、120人の方がこのコロナの中でも集まって頂きました。福島の事故の実相、今も続く重大な問題、政府や行政そして東電などによって隠されている汚染水の問題や甲状腺がんそして原発事故からの避難

者の苦しい生活、その実態を私たちは見てきました。私が毎月やっている署名、10人とか20人ほどとかですけども続けています。今は東海第二原発の再稼働を止める署名を中心に、最近では7月25日にJRの溝の口駅前で署名をやってます。この暑さのなか、11人の人たちに集まってもらいました。私たちが署名の準備をしていてまだ始まっていない時にも何人かの人が、「署名させてくれ！」と言って、慌ててこちらが署名簿を取り出す、そういうこともありました。こういうことがあると私たちは意気が高まります。その署名は‘東海第二原発の工事を止める’署名が19筆、そして‘トリチウムの汚染水を流すのを止めよう’、これが47筆でした。

これまで今年になってから2月には、東海第二原発の工事を止める署名ですけども28筆、3月28日には27筆、4月には51筆、5月には20、6月は32、そういうかたちで継続的に集まっています。まだまだ少ないですけども、この川崎からは東海第二原発まで125キロ離れていますけども、でもこの原発が怖いということが私たちも市民の方たちも十分に分かっています。福島の事故の重大性、何よりもこの膨大な人口の中で東海第二で事故が起こればどうなるか、この重大性を理解できない人はいないと思います。

水戸判決でも避難の不可能性ははっきりとしている。これを原電は、避難は可能だというのでしょうか。こんなことは言えるはずがありません。そもそも日本原電はあの2011年3月の東日本大震災をどう考えているのか、福島の事故で避難された方々を、この実情を、日本原電はどう考えているのか、本当に聞きたいです。ひょっとして日本原電は、東電とは違って日本原電は絶対に事故を起こさない、こんなことを言っているのか、まさかそんなことは無いと思うけども、そんなことは誰も言うことは出来ない。

（今さら）言うまでもないけども、この日本原電はデータの改ざんをさんざんやってきて、あの規制委員会にさえ呆れられ、それで‘安心・安全’などと言ったって誰も信用することができない。そして脱原発かわさき市民は、福島の事故で神奈川に避難されてきた人たちを多く知っています。

福島原発神奈川訴訟を私たちは支援しています。神奈川訴訟のみなさん、原告団長は、避難民は、‘私たちは捨てられた’、こういうことをおっしゃっています。この言葉をどう聞くのか、東電はもとより原電はどう考えるのか、はっきりさせたいと思います。本当に多くの方々がこの現実の中で本当に懸命に生きている。原電はこういった実情を真摯に受け止め、事故の危険性を直視しなければいけないと思います。

原電は水戸判決を今からでもしっかりと受け入れ、控訴を取消し、工事を中止して再稼働を断念しろ！私たちも9月11日のオール行動に一緒に参加して共に原電に、再稼働を断念させようじゃありませんか！ありがとうございました！

脱原発（郵政ユニオン）

申入書読み上げ①
披田信一郎さん
（東海第二原発の再稼働を止める会）

首都圏連絡会の申入書の作成・読み上げは先ほど、‘脱原発スピーチ’をして頂いた披田信一郎さん。

深層防護の第五層の安全性をないがしろにし、第四層までの技術的防護が規制委員会から認められた、から問題ないとする原電のその論理破綻及び住民の生命への軽視について力強く訴えた。

さらには、原電が大丈夫とするその第四層の技術的安全対策が、原発事故時において脆弱性を暴露することを指摘し、その技術的安全対策さえも安全でないことを鋭く追及した申入れだった。

申入書読み上げ②
けしば誠一さん
（反原発自治体議員・市民連盟）

反原発自治体議員・市民連盟の申入書作成・読み上げは、杉並区議会・議員でもあるけしば誠一さんにして頂いた。

原電周辺の6市村の避難計画の実情を精査し、具体的にその事実を例示し、その上でその困難性を訴えた。そしてそれは東海第二の関係省庁へも取材した上での訴えでもあり、完全に原電による東海第二の再稼働の無謬性のなさを証明したものだった。

また、原電の倫理性の不備についても追及し、それにより原電の原発を稼働させる資格のなさをも追及した申入れだった。

この日も多くのノボリが原電前に掲げられた

今回の原電前アクション音楽は、いつもこの抗議行動に参加されている方にはお馴染みのレギュラーサウンドでの4曲メドレーだった。そこでここではいつものうんちくを書かず、この原電前音楽バンドの魂をストレートに感じることのできる、今回演奏された♪原電前の闘志（ブルース曲）の歌詞を書きます。

♪忘れろというのか 血塗られたもの歴史よ 原発事故 廃炉を求める者は 死ねというのか 命守り戦う勇気など持つなと 血塗られたもの歴史よ 原発事故
　廃炉を求める者は 死ねというのか 命守り闘う勇気など持つなと 熱き胸切り裂かれて 倒れ伏す者と 助ける血濡れの腕が 土を血で染める
　朝日が昇り夕日が沈む海よ 美しき島々や偉大な山河の陸よ 我ら小さくとも 諦めはしない 再び立ち上がるのだ その土を握りしめて 再び立ち上がるのだ その土を握りしめて オーーーー！

今のこの時期の電力政策をめぐる実状を鑑み、急遽全国再稼働阻止ネットワークの木村さんに行動提起をしてもらった。
　規制委員会は敦賀2号機の審査はダメだが、東海第二の審査は良しとした。このことに私たちは強く抗議しなければいけない。
　また、政府のエネルギー基本計画に触れ、（おそらく）7月30日の総合資源エネルギー調査会基本政策分科会の第47回会合の出席者が、‘その再生可能エネルギー政策はけしからん’とし、原発政策を重視するような発言をしたことに対して強い怒りと危機感からの発言がされた。
　そして資源エネルギー庁の意見箱へ、このエネルギー計画が決まる前に意見を出すことの重要性を訴えた。尚、この木村さんはこの日をもってその意見箱に（全て違う文面で）意見を出した回数が90を数えた。

横田からは9.11一斉行動の意義が説明された。たんぽぽ舎はその日の13時～14時、お茶の水駅の東京医科歯科病院の方の出口で、統一チラシの配布、マイクアピールなどをし、住民の方たちに訴える。40～50カ所で一斉に行動するのは初めて。‘東海原発いらない！’の声をあげる。
　8月20日に第3回金曜行動が行われる。この金曜行動は原則、毎月第三金曜日に行われる。
　この2つの行動提起がされ、参加を呼びかけた。

そして最後に締めのシュプレヒコールを中村にして頂いた。いつものことだが、この8月の暑さを吹き飛ばすほどのパワフルなコールだった。

この暑さのなか、67名もの参加者があった。その来て頂いたことへの感謝の意を述べさせて頂き、改めて東海第二を止める決意をして、最後に9．11一斉行動への参加を呼びかけてこの抗議行動を終了した。

次回の原電前抗議行動は、
9月1日(水)17:00～ その後の東電前抗議行動は、
同日 18:45～
第3回官邸前金曜行動は、
8月20日(金)18:30～
です。